

中滑川駅周辺の整備に関する提案書

平成 30 年 9 月

滑川市議会中滑川駅周辺整備検討特別委員会

1 はじめに

中滑川駅は市の玄関口であり、誰もが親しみを感じ、にぎわいを創出するような施設の整備が必要であると考え、滑川市は平成 27 年 12 月に中滑川駅周辺の土地約 7,400 m²を取得しています。その土地の利活用については、地元住民や中高校生から非常に注目されているところです。

本提案は、当委員会で実施した行政視察や滑川高校生との懇談会の成果をもとに、中滑川駅周辺の整備について提案するものです。

2 中滑川駅周辺整備検討特別委員会の調査研究の経過

平成 29 年 12 月 25 日	中滑川駅周辺整備検討特別委員会設置
平成 30 年 1 月 16 日	協議会開催（今後の進め方について）
平成 30 年 2 月 21 日	協議会開催（まちづくり課との協議）
平成 30 年 4 月 10 日	協議会開催（提案作成に向けた協議）
平成 30 年 4 月 25 日	協議会開催（具体的な提案内容に向けた協議）
平成 30 年 5 月 10 日	協議会開催（施設のコンセプトについて）
平成 30 年 7 月 4 日	協議会開催（施設のコンセプトと整備すべき機能について）
	滑川高校生と滑川市議会との懇談会【広報広聴委員会企画】
平成 30 年 7 月 18 日	協議会開催（整備すべき機能について）
平成 30 年 8 月 7 日	行政視察実施
平成 30 年 8 月 8 日	行政視察実施
平成 30 年 8 月 20 日	協議会開催（提案書の内容について）

新潟県新発田市：イクネスしばた
朝日町：五叉路
富山市：総曲輪レガートスクエア
新潟県長岡市：アオーレ長岡
立山町：立山町元気交流ステーション
みらいぶ

3 中滑川駅周辺の現状と課題

中滑川駅は、かつて、駅と一体となった農協会館があり、スーパー、クレープ屋などの飲食店、本屋、床屋などいくつものテナントが入っていましたが、少子高齢化社会が到来し、駅利用者の減少により、にぎわいが失われ、徐々にテナントが撤退しました。平成 26 年には農協会館が取り壊され、更地となり、今では建て替えられた駅舎のみとなっています。

滑川市が実施した地元町内会との座談会や滑川中学生及び滑川高校生へのアンケートによると、スーパーなど小売店、公園、クレープ屋やカフェなど飲食店、

ゲームセンターやカラオケなどの娯楽施設などがあつたらよいとの意見が多かつたとのこと。しかしながら、中滑川駅周辺にはコンビニやスーパーが既に営業しています。また、市有地が接している道路の幅員もそこまで広くなく、大きな交通量・集客力は期待できない状態です。

このほか、中滑川駅周辺には市民健康センターや働く婦人の家など今後、老朽化による建て替えなどの検討が必要な公共施設があります。これらの施設は「滑川市公共施設等総合管理計画」では今後の利用動向や市民ニーズを考慮し、周辺の公共施設との統合や機能集約を図ることができないか検討を行うこととなっています。

4 新発田市の取り組み

新発田市は、新潟市に隣接する新潟県北部の都市で、平成15年、17年に周辺の町や村と合併し、人口約9万8千人、面積533.10平方キロメートルで、江戸時代より城下町として繁栄し、現在も新発田城など国の重要文化財があり、歴史の風情と文化が色濃く残る城下町の市です。

新発田市も、当市と同様、少子高齢化社会に直面し、新発田城から新発田駅までの中心市街地においてドーナツ化現象がみられました。昭和56年には製糸工場が、平成8年には大型店舗が新発田駅前から撤退し、大きな遊休地やシャッター街など、その傾向が顕著に現れました。

そこで新発田市は、新発田城から新発田駅までを「歴史・文化ゾーン」「公共ゾーン」「情報発信ゾーン」と3つのゾーニングを行い、新発田駅前は「情報発信ゾーン」として、図書館を移転させ、子どもセンターやキッチンスタジオ、カフェも取り入れた「イクネスしばた」を整備しました。公共施設の複合化により、来場者数は年間約42万4千人と従来の2倍以上の数となっています。また、財源についても、国土交通省の補助事業（補助率1/2）と合併特例債（交付税措置約70%）を利用し、一般財源の持ち出しを少なくする取り組みをしていました。

また、「イクネスしばた」の隣には民間が整備した施設のMINTO館があり、調剤薬局、コンビニ、医療施設、学生寮などが入っており、官民協力のもとにぎわいの創出に取り組んでいました。

5 提案事項

中滑川駅周辺の整備について、当委員会ではコンセプトを「公共施設の複合化と三世代交流駅」とし、地元住民や学生らが親しみやすい交流の場・にぎわいの創出となるよう次の機能を持った施設の整備を提案します。

また、昨今の厳しい財政状況を踏まえ、財政を圧迫しない整備、複数年・複数回での整備の検討も併せて提案します。

【最重要提案事項】

(1) 公共施設の複合化

中滑川駅周辺には市民健康センターや働く婦人の家があります。耐用年数やIs値からは喫緊の耐震工事等は不要と思いますが、特に市民健康センターでは市民ニーズや業務量の増加、平成32年度までに子育て世代包括支援センターを整備する必要もあることから現在の建物では不十分な面があると考えます。市民健康センターと働く婦人の家を統合し、中滑川駅前に移転し、3つの機能をもった施設を整備することで利用者の増加・にぎわいの創出を図ることを提案します。

また、医師会館も隣接していることから、一緒に施設に入ることができないか医師会へ協議することを提案します。

(2) 交流スペースや学生の勉強スペース

滑川高校生との懇談会では、電車を待つ間に休める場所や食事ができる場所、勉強するスペースが欲しいとの意見がたくさんありました。また、地元の住民が親しみやすい施設にするため交流スペースが必要と考えます。このことから、地元住民らが交流するスペース及び学生が勉強できるスペースの整備を提案します。

(3) 飲食店

滑川高校生との懇談会では、部活帰りに夕食を食べる場所が欲しいとの意見が多くありました。また、地元の住民がくつろぎながら懇談するには飲食店は必須と考えます。このことから、飲食店をテナントとして誘致することを提案します。

(4) 公園、駐車場

コンセプトにあるように三世代の交流の場として祖父母と孫が遊ぶ公園は必要な施設です。また、健康づくりの面からもウォーキングなど体を動かす場所があると有益と考えます。西地区は緑が少ないこともあり、公園の整備を提案します。また、施設の利用者の利便性や利用者数増加を図るため、駐車場の整備も併せて提案します。

(5) コミュニティバスのターミナル

電車やコミュニティバスの利用者の利便性の向上や現在整備されていないバス運転手の休憩時の駐車場の確保のため、コミュニティバスのターミナルの整備を提案します。

(6) 会議室、キッチンスタジオ

市内には貸し会議室として市民交流プラザがありますが、市民や団体などからはもっと貸し会議室（特に少人数の会議室、移動式間仕切りで部屋の大きさを変えられる会議室、和室）があればとの声が聞こえます。また、健康センターや働く婦人の家にあるキッチンスタジオは、子どもの食育、食生活改善推進員の研修会及びサークル活動に使われ、需要があります。このことから会議室、キッチンスタジオの整備を提案します。

(7) 子ども（未就学児）の遊び場

近辺には児童館が整備され、天候に関係なく遊べる場はありますが、中滑川駅周辺には市民健康センターがあり、未就学児とその親がたくさん訪れます。また、コンセプトにあるように祖父母と孫と一緒に遊べる場所があればにぎわいの創出にもつながると考えます。このことから、子ども（未就学児）が遊べる場所の整備を提案します。

【その他提案事項】

(1) 図書館の移転

図書館は耐震工事も終わっていますが、いずれは施設の老朽化などによりあり方の検討が必要になってきます。そこで中長期的な視野に立ち、将来、中滑川駅周辺への移転についての検討を提案します。

(2) 災害時の屋上利用

平時は海と山と電車が見える展望台として、津波などの緊急・災害時には避難所として屋上を利用できるよう整備することを提案します。

(3) 駅舎までの通路

にぎわいの創出や利便性の向上のためには利用者が天候に関係なく駅舎を利用できることが重要と考えます。そこで駅舎までの通路に屋根を設けるなどの整備を提案します。

(4) イベント広場

市内には天候に関係なくイベントを開催できる小中規模の施設がありません。にぎわい創出のためにも空調機能が整備され、外からも中が見えるように

外壁を透明にする。また、広場を開放的に使えるよう外壁を移動式にした広場の整備を提案します。

(5) 売店

地元町内会や滑川高校生との懇談会からも生活用品や文房具など買える売店が欲しいとの声がありました。そこで、売店をテナントとして誘致することを提案します。

(6) 太陽光発電

災害時の電源供給や地球温暖化対策のためにも、太陽光発電の整備を提案します。